

「こころの窓」を閉じさせていただきます

先週、第37回卒業証書授与式を行い、卒業生50名が巣立って行きました。児童会の先頭に立ち、学校を元気にしてくれていた6年生です。在校生にとってもたいへん名残惜しく辛い別れでしたが、「6年生にとって一生に一度の小学校の卒業式なので、みんなですばらしい式をつくりあげましょう」という私からのお願いを大事に受け止めてくれたのか、とてもおごそかで、美しい歌声が響くすばらしい式になりました。

卒業式を終えてから、お別れする先生方との離別式も行いました。今年度末にお別れする先生を校長から紹介し、お一人ずつ子どもたちへのメッセージを伝えていただきました。お世話になった担任の先生や保健室の先生、図書館の先生、そして教頭先生とお別れを知り、動揺を隠せない姿もありました。残念ですがこれも定めです。お別れは辛いものですが、それがあってこそ新たな出会いが生まれます。明るい春がやってくることを信じて、よい別れができたと思います。

校長もこの年度末に役職定年となり川西小を離れることになりました。「自ら考えともに高め合い かがやく子」という学校教育目標の具現を目指し、子どもたちと先生方の力を借りて一歩一歩進んできた3年間でした。おかげさまで、今年度は「自分を超える」というテーマのもとに、子どもたちが自分の「好き」を発信するじぶこえ集会を積み重ねてくれ、川西小の新たなページをつくってくれました。悔いなくよいお別れができます。3年間のそれぞれにより思い出ができました。お世話になったみなさま、ありがとうございました。

「こころの窓」は、私が中学校の生徒指導係をしていた時、子どもたちへのメッセージを書いて廊下に掲示していた時に使っていたタイトルです。過ごしやすい学校にしていくなために日々伝えたいことがあり、どんどん重ねて貼っていった手書きの紙が、気づくととても厚くなっていたことを思い出します。校長としての「こころの窓」は極めて不定期な配信で、特に今年度はわずかしこ更新することができませんでしたが、毎号ご愛読いただいたみなさまに感謝申し上げます。

心躍る春がもうすぐそこまで来ています。子どもたちは一つ上の学年に進級します。新しい先生と一緒に新しいクラスづくりが始まります。それはとても愉しみなことです。

川西小学校が各クラスのそんな前向きな取組にあふれ、ますます素敵な学校になっていくことを願っています。

またどこかでお目にかかる日を楽しみに。

どうぞみなさん、お元気で！ ありがとうございました。



・ ・ ある朝の校庭 ・ ・